



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成25年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 コナミ株式会社
コード番号 9766 URL <http://www.konami.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上月 拓也
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画部長 (氏名) 山地 康之
四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

TEL 03-5771-0222
平成25年11月28日

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	97,928	△8.2	3,771	△70.0	4,217	△63.3	2,016	△71.0
25年3月期第2四半期	106,673	△13.3	12,563	△37.8	11,488	△40.7	6,955	△39.3

(注) 当社株主に帰属する四半期包括利益 26年3月期第2四半期 2,630百万円 (△51.7%) 25年3月期第2四半期 5,442百万円 (△41.1%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	14.54	14.54
25年3月期第2四半期	50.17	50.17

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	330,702	225,202	224,583	67.9
25年3月期	322,948	225,999	225,425	69.8

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
26年3月期	—	17.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	232,000	2.7	27,000	23.4	26,000	18.6	15,500	17.7	111.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- (注)詳細は添付資料7ページをご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	143,500,000 株	25年3月期	143,500,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	4,884,889 株	25年3月期	4,881,940 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	138,616,238 株	25年3月期2Q	138,619,565 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予測には、本資料の発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれております。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料5ページをご参照願います。

決算補足説明資料は、平成25年11月7日に当社ホームページに掲載する予定です。

(添付資料)

【目次】

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更	7
3. 四半期連結財務諸表等	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 継続企業の前提に関する注記	13
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13
(6) セグメント情報	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第2四半期連結累計期間の概況

当社グループを取り巻く経営環境は、国内においては、消費税の増税決定という新たな景気変動要因が生じたこともあり、景気の先行きに不透明感はあるものの、円安基調の継続による輸出環境の改善、経済・金融政策の効果に対する期待感に加え、東京でのオリンピック開催決定による高揚感等から、個人消費にも明るい兆しが見えつつあります。海外においても、中国の経済成長率の伸びの鈍化等、新興国経済に関する不透明感がある一方、米国では緩やかな景気回復基調が続き、欧州の財政問題も一服する等、欧米経済では景気回復基調が見えつつあります。

エンタテインメント市場におきましては、スマートフォン・タブレット端末の急速な普及によるモバイル端末の性能の進化や通信インフラの発達に伴い、ゲームプラットフォームは更に多様化が進むと共に、次世代ゲーム機も発表され、ゲーム業界におけるビジネスチャンスは拡大を続けております。カジノビジネスに関しては、海外では引き続き観光資源の開発等によりカジノ市場が国際的に広がってきているのみならず、東京でのオリンピック開催決定に伴う国内カジノ解禁に対する期待も高まっており、カジノビジネスの成長が期待されております。

健康市場におきましては、社会全体における健康意識が高まる中で、特にシニア世代や女性層を中心に、健康や体力の向上を余暇の目的とする割合が年々上昇する傾向にあり、スポーツ志向、健康志向、そして高齢化に伴う介護予防への需要が更に高まりをみせております。

このような状況のもと、当社グループのデジタルエンタテインメント事業におきましては、「ドラゴンコレクション」を始めとするソーシャルコンテンツが堅調を維持するとともに、「METAL GEAR SOLID THE LEGACY COLLECTION」や「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「ワールドサッカー ウイニングイレブン2014」(欧米向け「Pro Evolution Soccer 2014」)を発売したほか、「モンスター烈伝 オレカバトル」が堅調に推移いたしました。

健康サービス事業におきましては、“続けられる”をコンセプトに、コナミスポーツクラブのサービスを一新し、お客様の利用頻度に応じて選択いただける適正な価格に設定した新料金プランや複数の施設を手軽に利用できる新施設利用制度を開始し、ご好評をいただいております。

カジノ事業におきましては、ビデオスロットマシン「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage」シリーズ等の販売が米国市場を中心に堅調に推移いたしました。

遊技機事業におきましては、パチスロ機の新商品「魂斗羅3D」を発売いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は979億2千8百万円(前年同期比8.2%減)、営業利益は37億7千1百万円(前年同期比70.0%減)、税引前四半期純利益は42億1千7百万円(前年同期比63.3%減)、当社株主に帰属する四半期純利益は20億1千6百万円(前年同期比71.0%減)となりました。

②事業の種類別セグメントの業績

事業別売上高及び営業収入(セグメント間含む)要約版

	前第2四半期 連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)	増減率
	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
デジタルエンタテインメント事業	52,691	44,620	△15.3
健康サービス事業	40,335	38,583	△4.3
カジノ事業	11,393	13,623	19.6
遊技機事業	2,643	1,445	△45.3
消去	△389	△343	△11.8
連結合計	106,673	97,928	△8.2

(注) 当第2四半期連結会計期間より、ゲーミング&システム事業をカジノ事業に名称変更しております。

(デジタルエンタテインメント事業)

「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」シリーズ、「ワールドサッカーコレクション」シリーズ、「クローズ×WORST～最強伝説～」等を始めとするソーシャルコンテンツが引き続き堅調に推移し、収益に貢献いたしました。新規タイトルとしては、「クローズ×WORST～打威鳴舞斗～」、「戦コレ絆クロス」を国内市場向けに、「Star Wars™: Force Collection (スター・ウォーズ フォース コレクション)」をアメリカやイギリスを始め30カ国以上の海外市場向けに、アプリストアで配信を開始し、好評を博しております。

家庭用ゲームソフトでは、「METAL GEAR SOLID THE LEGACY COLLECTION」が国内外で堅調に推移したほか、「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「ワールドサッカー ウイニングイレブン2014」(欧米向け「Pro Evolution Soccer 2014」)を発売し、順調に推移いたしました。

業務用アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT Participation」タイトルや大型マスメダルゲームの安定した稼働により、継続的な収益の獲得に貢献いたしました。「麻雀格闘倶楽部」シリーズにおいては、アミューズメント機器との連動機能を搭載したスマートフォン向けアプリ「麻雀格闘倶楽部Sp」の配信を開始しており、相乗効果による収益拡大に努めております。また、月刊少年誌での漫画連載やスマートフォンアプリとの連動等により好評を博しております。「モンスター烈伝 オレカバトル」及び「ドラゴンコレクション シシトウ団の野望」については、アニメ化を発表する等、大きな注目を集めており、同タイトルのコンテンツ価値の最大化に努めました。

グローバルに展開する「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズは、各地域で安定した人気に支えられ、引き続き堅調に推移し、収益に貢献しております。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は446億2千万円(前年同期比15.3%減)となりました。

(健康サービス事業)

健康志向や高齢化に伴う介護予防への関心が高まる中、コナミスポーツクラブでは、「トータル健康パートナー」をビジョンに掲げ、単なる運動のための場所としてではなく、子どもからお年寄りまですべてのお客様にとって健康やカラダについていちばん頼りになる存在を目指しております。また、健康を実現する上で最も重要なことは、続けていただくことであり、「全ては“続けられる”ために」をコンセプトにサービス改革に着手いたしました。

「通いやすく」、「続けやすく」、「自分に合ったメニュープランを」というお客様からのご要望に応えるために、週ごとの利用回数をお客様の目的やペースによって選択できる新料金プランと、複数の施設を手軽に利用できる新施設利用制度を導入いたしました。これに合わせて、お客様ごとに最適なトレーニングメニューと継続的なフィットネスライフを提案する「MY Fit Planner」においても、カウンセリングにトレーニングの頻度を確認する項目を追加し、施設の利用頻度の少ないお客様にも、無理なく継続し、効果を感じていただける運動メニューを提案しております。また、施設での運動メニュー以外にも、自宅のできるトレーニングや、食事の摂り方に関する提案を追加し、お客様の健康づくりをトータルにサポートするサービスを提供しております。

新たなプログラムとしては、心身のリラックス効果やストレス解消を求める方に向けて、毎日を快適に過ごシストレスやケガに強いカラダづくりをサポートする「パーソナルストレッチ」と、年齢や性別を問わず、すべての方の体の中心部(体幹)を鍛えることで、日々快適で機能的なカラダづくりをサポートする「コアトレーニング」等のパーソナルプログラムを導入し、より幅広いお客様のニーズに応えるプログラムの提供を開始しております。

子供向けスクールの「運動塾」では、ジュニア向けダンスプログラム「ジュニアファンク」を、心と体を育むダンスをコンセプトに新たに「ダンシングスターズ」としてリニューアルしました。学校の授業でダンスが必修科目となり、ダンススクールの需要が高まる中、初めて習うお子様からスキルを磨きたいお子様まで、お子様の目的に合わせたステップアップ式のダンスプログラムを提供するほか、練習の成果を発揮する場であるダンス発表会も「ダンシングスターズ ダンスチャレンジ」として一新し、お子様の技術の向上と共に、健全な成長をサポートしております。

受託施設運営では、これまで培った運営・指導のノウハウや実績を役立て、神奈川県鎌倉市や大分県大分市の公共スポーツ施設を始め16施設の受託運営を新たに開始し、各地域の施設の受託運営を通じて地域社会の皆様の健康増進に取り組んでおります。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は385億8千3百万円(前年同期比4.3%減)となりました。

(カジノ事業)

北米市場では、定番となったビデオスロットマシン「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage」シリーズが引き続き好評を博しており、販売が堅調に推移いたしました。また、パーティシペーションにつきましては、「Podium」を大型化した「Podium Goliath」等を投入し、プレイヤーの期待感を一層高めるプレミアム商品ラインナップを拡充しております。さらに、従来の「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」を進化させ、機能を拡充した新しいカジノマネジメントシステムである「SYNKROS」が、カジノオペレーターより高い評価をいただいております。

オセアニア市場においては、引き続き「Podium」の販売を進めております。また、アジア、中南米、欧州市場におきましては、販売代理店網の整備を進め拡販に努めております。

なお、「Global Gaming Expo (G2E) 2013」では、「Podium Goliath」を始め、3D表現に対応した次世代プラットフォーム「KP3」向けゲームタイトル「Dragon's Law」や「Solstice Celebration」、マルチステーション大型機「Titan 360」等、エンタテインメント性の高いカジノ機器を出展いたしました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は136億2千3百万円（前年同期比19.6%増）となりました。

(遊技機事業)

パチスロ機の新商品として世界中のファンから熱い支持をいただいているKONAMIのアクションゲーム「魂斗羅」を迫力の3D映像で表現した「魂斗羅3D」を発売いたしました。また、前期に発売した「スカイガールズ～よろしく！ゼロ～」が市場から好評価をいただき、追加受注による販売が堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は14億4千5百万円（前年同期比45.3%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比較して77億5千4百万円増加し、3,307億2百万円となりました。これは主として、現預金や売掛金が減少した一方で、棚卸資産や有形固定資産が増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比較して85億5千1百万円増加し、1,055億円となりました。これは主として、社債の満期償還があった一方で、前受収益の増加や社債の新規発行を行ったこと等によるものであります。

(株主資本)

当第2四半期連結会計期間末における株主資本合計は、前連結会計年度末に比較して8億4千2百万円減少し、2,245億8千3百万円となりました。これは主として、為替換算調整額を含むその他包括利益（損失）累計額が増加した一方で、前連結会計年度に係る配当を実施したこと等によるものであります。

なお、株主資本比率は、前連結会計年度末に比較して1.9ポイント減少し、67.9%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期 連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)	増減
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	706	3,511	2,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,550	△21,724	△15,174
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,600	6,068	14,668
為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△433	105	538
現金及び現金同等物の純増減(△)額	△14,877	△12,040	2,837
現金及び現金同等物の期末残高	61,574	51,629	△9,945

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比較して120億4千万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には516億2千9百万円（前年同期比16.2%減）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、35億1千1百万円（前年同期比397.3%増）となりました。これは主として、棚卸資産の増加や四半期純利益の減少があった一方で、法人税等の納税額の減少や前受収益が増加したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、217億2千4百万円（前年同期比231.7%増）となりました。これは主として、設備投資等の資本的支出が増加したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により獲得した資金は、60億6千8百万円（前第2四半期連結累計期間には86億円の使用）となりました。これは主として、社債の新規発行を行ったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通し

（デジタルエンタテインメント事業）

スマートフォンやタブレット端末が世界的に普及する中、ゲームの提供手段は益々多様化しており、今まで以上に多くの方々にゲームに親しんでいただける機会が増えつつあります。そのような状況の下で、当社グループは、コンテンツを軸にビジネスを展開することで、新しいデバイスの登場によって一つのコンテンツに対する出口が増えると捉え、それぞれのデバイスの特徴に合わせた遊び方を提案してまいります。

ソーシャルコンテンツでは、今後も拡大が見込まれる市場に経営資源をより一層集中し、さらなるヒットコンテンツを産み出すべく、これまでに培った制作・運営ノウハウや豊富な資産を活かしてラインナップの拡大を進めてまいります。また、欧米のみならずアジア地域も含めた海外の新たなプラットフォームへの展開を積極的に図るとともに、有力コンテンツとのシナジーによる魅力的なコンテンツの配信も進めてまいります。

家庭用ゲームソフトでは、選択と集中により厳選されたトリプルAタイトルを、当社グループの制作ノウハウを活かしながらグローバルに展開していくとともに、既存コンテンツを活かした制作も進め、ヒットタイトル創出を目指してまいります。また、海外ゲームユーザーのニーズをいち早く取り入れたゲーム制作を進めるため、現地でのゲーム制作体制の強化も積極的に進めており、9月にはコンテンツ産業の中心地であるアメリカ・ロサンゼルスに、制作スタジオ「ロサンゼルススタジオ」を開設いたしました。さらに、「ウイニングイレブン」シリーズでは、よりリアルなサッカーゲームを楽しんでもらうために、「FOX ENGINE」をベースとした新しい“サッカー専用ゲームエンジン”（ゲームの基

本プログラム) を活用してまいります。

業務用アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT」を使った“人と人とのコミュニケーション”を通じてアミューズメント施設ならではの遊びを提供し、業界のさらなる活性化に取り組んでまいります。既にサービスを開始しているコミュニティサイト「eAMUSEMENT」、電子マネー「PASELI」や、「e-AMUSEMENT Participation」についても、順次対応機種やサービスの拡充を推進し、業界を牽引する革新的なサービスの提案を行ってまいります。また、「モンスター烈伝オレカバトル」や「ドラゴンコレクション シシトウ団の野望」では、コンテンツ価値の更なる向上を図るため、有力コンテンツと連動した商品やサービスの提供を進めており、また、これらコンテンツのアニメ化決定がさらに市場の盛り上がりにも貢献することが期待されます。

カードゲームでは、引き続き「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズをグローバルに展開してまいります。

(健康サービス事業)

健康サービス事業では、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、新たなライフスタイルの提案によるコナミスポーツクラブの付加価値向上を目指してまいります。高齢化社会の本格的な到来と国家レベルでの生活習慣病対策等に加え、政府による成長戦略においても健康長寿産業の拡大に向けた新たな仕組みの整備を推し進めることが発表される等、社会全体における健康意識は高まっており、スポーツクラブ運営や健康機器開発・販売等にとどまらず、幅広い年代の様々なタイプの方々に対して健康増進を提案する機会は今後も広がっていくと思われまます。

このような幅広いお客様のニーズに応えるべく、コナミスポーツクラブではスタジオプログラムの改変を進めてまいります。まずは、近年注目されているロコモティブシンドロームの予防に主眼を置いた低強度のスタジオプログラムとして、ゆっくりとした昇降運動を行いながら足腰を鍛え、脂肪を燃焼させる「ステップアップ」、大腿部を中心に全身を鍛え、若々しい体となめらかな動きを実現する「ロコモ・フィット」、体幹運動を通じて正しい姿勢と動きの土台を作る「ロコモ・コア」の3つのスタジオプログラムの展開を予定しております。

300を超えるスポーツクラブを運営する国内最大規模の企業としての強みを最大限に活用し、健康を実現する上で最も重要な“続けられる”をコンセプトに引き続きサービス改革を進め、トータル健康パートナーとして施設内外を問わず様々な場面で健康維持・増進を支援することで、お客様の日々の生活において健康やカラダについていちばん頼りになる存在を目指してまいります。

(カジノ事業)

スロットマシン販売については、好評を博しているビデオスロットマシン「Podium」を中心に商品展開並びに販売強化を推進するとともに、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」を搭載したスロットマシンの販売にも注力いたします。メカニカルスロットマシンでは、「Advantage」シリーズの積極的な販売を引き続き推進してまいります。また、カジノ市場を的確に捉えた販売形式であるパーティシペーションにつきましては、マルチステーション大型機「Titan 360」等、さらなる対象商品の拡大により、カジノオペレーターへのニーズへの対応を強化し、定期収入を増加させ経営の安定化を図ってまいります。さらに、アジア、中南米、欧州市場等についても、現地ニーズに適したローカリゼーションによる販売拡大を進めてまいります。

その他、従来の「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」に多様な機能を追加して新たに生まれ変わった新世代のカジノマネジメントシステムである「SYNKROS」につきましては、各展示会や商談会等において、大手カジノオペレーターより高い評価をいただいております。今後も、積極的に市場へ向けて販売を行うとともに、新機能の開発等を行いながら、商品力の強化に努めてまいります。

(遊技機事業)

遊技機事業では、オリジナルコンテンツとして高い支持をいただいている「マジカルハロウィン」シリーズの最新作「マジカルハロウィン4」や、可動役物を搭載したパチスロ機「激闘! 西遊記」の発売を予定しているほか、第3四半期以降も引き続き当社グループのオリジナルコンテンツを活用したパチスロ・ぱちんこ機の制作、販売に注力してまいります。

当期の通期連結業績につきましては、売上高及び営業収入2,320億円、営業利益270億円、税引前当期純利益260億円、当社株主に帰属する当期純利益155億円と予想しており、2013年5月9日付「平成25年3月期 決算短信」において公表いたしました業績予想から変更ございません。

注意事項

本短信の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レート等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

2. その他の情報

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更

新会計基準の適用

2013年4月1日より、米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)の改正(ASU)2013-02「その他の包括利益累計額からの組替金額の報告」を適用しております。ASU2013-02は、その他の包括利益累計額から組み替えられた重要な金額を、当期純利益が表示されている計算書または注記のいずれかにおいて、当該計算書の科目ごとに開示することを要求しております。なお、ASU2013-02の適用による当社及び子会社の財政状態及び経営成績に対する影響はありません。

減価償却方法の変更

従来、当社及び国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法として、主として定率法を採用しておりましたが、2013年4月1日から、定額法に変更しております。近年の事業環境の変化に伴い、健康サービス事業における施設戦略が新規設備投資を抑制し、既存施設等の長期安定的な使用にシフトしていること、また、その他の事業において、安定的に収益に貢献する製品・サービスが増加していること及び制作・製造体制の集約・整備を図った結果、有形固定資産の安定的な稼働・利用が見込まれております。このため、減価償却方法を定額法とすることは、有形固定資産の今後の使用形態を適切に反映し、また、費用を適切に収益に対応させるため、より望ましい方法であると考えております。この変更は、ASC250「会計上の変更及び誤謬の修正」に基づき、会計上の見積りの変更として将来にわたって認識されます。

この変更に伴い、従来の方と比較して、当第2四半期連結累計期間の減価償却費は375百万円減少しております。また、当社株主に帰属する四半期純利益及び1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、それぞれ232百万円及び1.68円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

区 分	前連結会計年度 (2013年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)				
流動資産				
現金及び現金同等物	63,669		51,629	
受取手形及び売掛金 (貸倒引当金控除後) - 2013年3月31日及び2013年9月30日現在の貸倒引当金はそれぞれ683百万円及び655百万円	33,066		24,398	
棚卸資産	26,349		35,609	
繰延税金資産	20,749		20,755	
前払費用及びその他の流動資産	9,650		10,831	
流動資産合計	153,483	47.5	143,222	43.3
有形固定資産	62,651	19.4	80,986	24.5
投資及びその他の資産				
市場性のある有価証券	440		525	
関連会社に対する投資	2,247		2,248	
識別可能な無形固定資産	42,225		42,014	
営業権	21,934		21,952	
差入保証金	26,625		26,504	
繰延税金資産	1,875		1,858	
その他の資産	11,468		11,393	
投資及びその他の資産合計	106,814	33.1	106,494	32.2
資産合計	322,948	100.0	330,702	100.0

区 分	前連結会計年度 (2013年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)				
流動負債				
短期借入金	4,681		5,563	
1年内返済予定の長期借入債務	5,000		—	
リース債務	2,166		2,035	
支払手形及び買掛金	14,443		12,703	
未払税金	4,104		1,320	
未払費用	19,971		18,069	
前受収益	5,464		10,735	
その他の流動負債	3,683		3,347	
流動負債合計	59,512	18.4	53,772	16.3
固定負債				
長期借入債務 (1年内返済予定分を除く)	—		15,000	
リース債務	22,588		21,555	
未払退職・年金費用	1,531		1,514	
繰延税金負債	4,424		4,297	
その他の固定負債	8,894		9,362	
固定負債合計	37,437	11.6	51,728	15.6
負債合計	96,949	30.0	105,500	31.9
(契約債務及び偶発債務)				
契約債務及び偶発債務				
(純資産の部)				
株主資本				
資本金				
普通株式—無額面：授権株式数 450,000,000株 発行済株式数 2013年3月31日現在及び2013年9月 30日現在：143,500,000株	47,399	14.7	47,399	14.3
資本剰余金	74,175	23.0	74,175	22.4
利益準備金	284	0.1	284	0.1
利益剰余金	113,808	35.2	112,359	34.0
その他の包括利益(損失)累計額	1,009	0.3	1,623	0.5
自己株式—取得原価 2013年3月31日現在：4,881,940株 2013年9月30日現在：4,884,889株	△11,250	△3.5	△11,257	△3.4
株主資本合計	225,425	69.8	224,583	67.9
非支配持分	574	0.2	619	0.2
純資産合計	225,999	70.0	225,202	68.1
負債及び純資産合計	322,948	100.0	330,702	100.0

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

区 分	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
売上高及び営業収入				
製品売上高	45,965		37,635	
サービス及びその他の収入	60,708		60,293	
売上高及び営業収入合計	106,673	100.0	97,928	100.0
営業費用				
製品売上原価	26,483		21,995	
サービス及びその他の原価	43,725		46,025	
販売費及び一般管理費	23,902		26,137	
営業費用合計	94,110	88.2	94,157	96.2
営業利益	12,563	11.8	3,771	3.8
その他の収益(費用)				
受取利息	91		107	
支払利息	△678		△599	
為替差損益－純額	△369		947	
その他－純額	△119		△9	
その他の収益(費用)－純額	△1,075	△1.0	446	0.5
税引前四半期純利益	11,488	10.8	4,217	4.3
法人税等	4,465	4.2	2,184	2.2
持分法投資利益－純額	13	0.0	28	0.0
非支配持分控除前四半期純利益	7,036	6.6	2,061	2.1
非支配持分帰属利益	81	0.1	45	0.0
当社株主に帰属する四半期純利益	6,955	6.5	2,016	2.1

(四半期連結包括利益計算書)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)
非支配持分控除前四半期純利益	7,036	2,061
その他の包括利益(損失)－税効果調整後 為替換算調整額	△1,542	558
売却可能な有価証券の未実現評価損益	27	55
年金債務調整額	2	1
その他の包括利益(損失)合計	△1,513	614
四半期包括利益	5,523	2,675
非支配持分帰属四半期包括利益	81	45
当社株主に帰属する四半期包括利益	5,442	2,630

(1株当たり情報)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	50.17円	14.54円
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	50.17円	14.54円
加重平均発行済株式数	138,619,565株	138,616,238株
潜在株式調整後発行済株式数	138,619,565株	138,616,238株

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
非支配持分控除前四半期純利益	7,036	2,061
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整項目		
減価償却費	4,726	5,100
貸倒引当金の純増減(△)	△177	△90
有形固定資産除売却損益(△)	59	33
持分法投資損益(△)	△13	△28
繰延税額	1,034	△384
資産及び負債の増減		
受取手形及び売掛金の純増(△)減	6,782	9,252
棚卸資産の純増(△)減	△5,193	△10,340
前払費用の純増(△)減	△995	△1,779
支払手形及び買掛金の純増減(△)	△1,868	△2,417
未払税金及び未収税金の純増減(△)	△7,947	△2,357
未払費用の純増減(△)	△2,495	△1,656
前受収益の純増減(△)	925	5,115
その他—純額	△1,168	1,001
営業活動によるキャッシュ・フロー	706	3,511

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
資本的支出	△5,306	△21,997
差入保証金の純増(△)減	△9	171
営業譲受による支出	△1,245	—
その他—純額	10	102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,550	△21,724
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減(△)	1,152	808
社債の発行による収入	—	15,000
社債の償還による支出	△5,000	△5,000
リース債務の元本返済による支出	△1,291	△1,190
配当金の支払	△3,460	△3,460
その他—純額	△1	△90
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,600	6,068
為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△433	105
現金及び現金同等物の純増減(△)額	△14,877	△12,040
現金及び現金同等物の期首残高	76,451	63,669
現金及び現金同等物の四半期末残高	61,574	51,629

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

①事業別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	カジノ事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	52,317	40,321	11,393	2,642	—	106,673
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	374	14	—	1	△389	—
計	52,691	40,335	11,393	2,643	△389	106,673
営業費用	40,992	38,971	8,543	2,433	3,171	94,110
営業損益	11,699	1,364	2,850	210	△3,560	12,563

当第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	カジノ事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	44,296	38,565	13,623	1,444	—	97,928
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	324	18	—	1	△343	—
計	44,620	38,583	13,623	1,445	△343	97,928
営業費用	40,916	37,896	10,584	2,505	2,256	94,157
営業損益	3,704	687	3,039	△1,060	△2,599	3,771

1. 各事業別セグメントにおける主な事業内容は、以下のとおりであります。

- ①デジタルエンタテインメント事業 ソーシャルコンテンツ、オンラインゲーム、ゲームソフト、アミューズメント、カードゲーム等のデジタルコンテンツ及びそれに関わる製品の制作、製造及び販売
- ②健康サービス事業 スポーツクラブ施設運営、健康関連商品の制作、製造及び販売
- ③カジノ事業 カジノ施設向け機器及びカジノマネジメントシステムの開発、製造、販売及びサービス
- ④遊技機事業 パチスロ機及びぱちんこ機等の制作、製造及び販売

2. 全社の項目は、主に本社費用から構成されております。

3. 消去の項目は、主にセグメント間取引高消去及び棚卸資産の未実現利益消去等から構成されております。

4. 当第2四半期連結会計期間より、ゲーミング&システム事業をカジノ事業に名称変更しております。

②所在地別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年9月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	81,478	16,957	5,655	2,583	106,673	—	106,673
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,339	899	75	266	6,579	△6,579	—
計	86,817	17,856	5,730	2,849	113,252	△6,579	106,673
営業費用	77,142	14,933	5,837	2,852	100,764	△6,654	94,110
営業損益	9,675	2,923	△107	△3	12,488	75	12,563

当第2四半期連結累計期間（自 2013年4月1日 至 2013年9月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	73,449	16,900	4,093	3,486	97,928	—	97,928
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,531	2,097	114	514	7,256	△7,256	—
計	77,980	18,997	4,207	4,000	105,184	△7,256	97,928
営業費用	75,931	16,948	4,888	3,705	101,472	△7,315	94,157
営業損益	2,049	2,049	△681	295	3,712	59	3,771

外部顧客に対する売上高については、当社及び子会社が製品の販売もしくはサービスを行っている場所に基づいてそれぞれの地域を決定しております。

(注記)

この連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しております。